

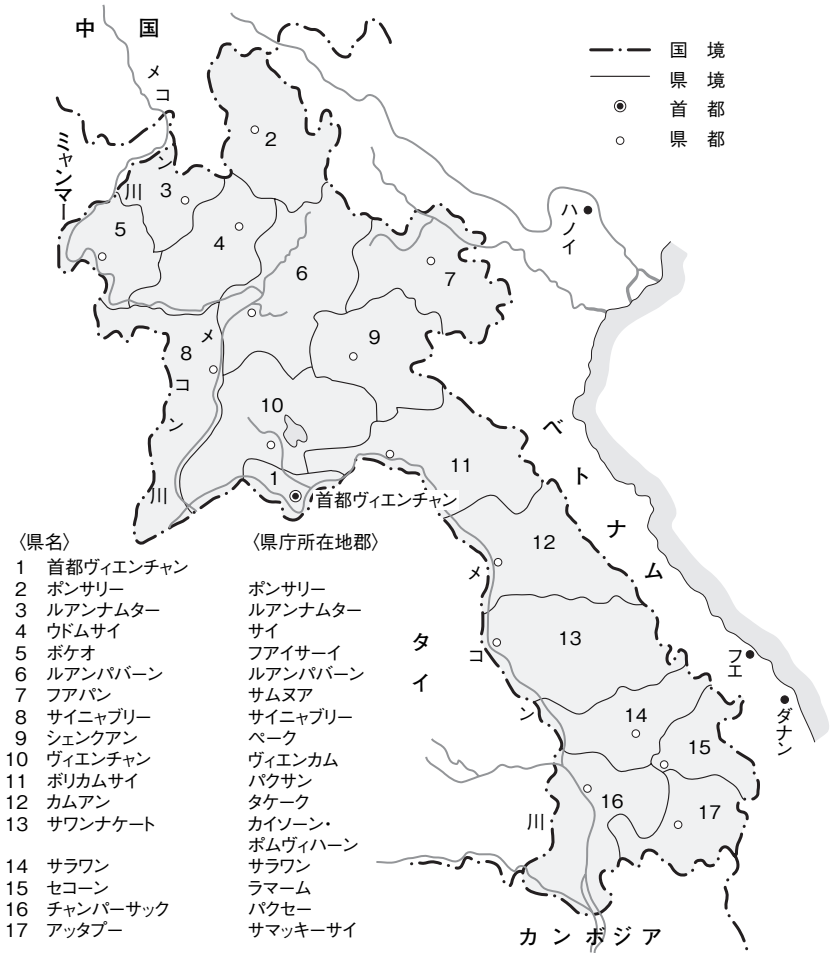
## ラオス語表記について

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	ラオスにおける国民国家建設 理想と現実
ページ	xii-xiii
発行年	2011
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00011403">http://hdl.handle.net/2344/00011403</a>

## ラオス語表記について

1. ラオス語のカタカナ表記については、文字綴りに依拠しつつも、できるだけ原音に近い表記を心がけた。たとえば、**ລ້ານຊ້າງ** (Lane Sang) は「ラーンサーン」ではなく「ランサーン」、**ລາວ** (Lao) は「ラーオ」ではなく「ラオ」と表記している。したがって、長母音を省略している場合がある。
2. 音節最後の **ນງ** (ng) は、「ング」ではなくすべて「ン」に統一している。また、とくに有気音と無気音の区別はしていない。
3. 地名は別図（次頁）にしたがっている。
4. ラオス語の翻字は、なるべく筆者間で統一を図ったが、筆者によって、末子音 **ຍ** は、y または i、母音 **ເື ື** は eu, oe、**ໄ ີ** は ai または ay としている。また、英語表記がすでに確立している人名については慣例にしたがっている。

ラオス全図



(出所) Kom Phaen Thii Haeng Saat (国家地図局), *Phaen Thii Kaan Pok Khoong Soo Poo Poo Lao 2010* [国家行政地図 2010年版] にもとづき編者作成。

